

書評

William Osler 著, 日野原重明, 仁木 久恵 訳

平静の心—オスラー博士講演集 新訂増補版

吉田 修(奈良県立医科大学学長)

私の手元に3冊の『平静の心』(オスラー博士講演集 日野原重明, 仁木久恵訳 医学書院)がある。1冊目は1983年9月発行の初版で, 至るところに傍線や書き込みがあり, かなり傷んでいる。2冊目はその翌年新訂されたものであり, いつも自宅の書斎に置いている。3冊目が今回, 新訂増補版として出版されたものである。

「そこから何を学んできたか?」一言で答えるのは難しいが, 「結びの言葉 L'ENVOI」に述べられている3つの信条を拳拳服膺してきた。第1は, 今日の仕事に全力を傾注し, 明日を思い煩わないというカーライルの言葉であり, 第2は, 同僚と患者に対して黄金律をもって接すること, すなわち何事でも人々からしてほしいと望むことは人々にもそのとおりにする, 人々からされてはいやだと思ふことは, 他人に向かってもしないようにすることであり, 第3は, 成功を謙虚に受け止めるだけの心の平静さをもつことである。医師にとって沈着な姿勢, これに勝る資質はなく, また悲しみの日が訪れたときには人間にふさわしい勇気をもってこれにあたることのできるような, そういう平静の心を培うことである。第1の信条は「生き方 A Way of Life」にも詳しく述べられているが, そこでは昨日と今日, 今日と明日の間を鉄の隔壁で閉ざした防日区隔室(Day-tight-compartments)のなかで生きよう説いている。これはオスラーがイギリスからアメリカへ渡るとき, 船には安全を確保するために防水区隔室(Water-tight-compartments)があることを船長から聴いて, 「水」を「日」に換えた造語を思いついたのである。さらに人生における習慣と集中力の重要性を強く訴えている。黄金律については, 孔子の《恕》すなわち「汝の欲せざる所他の人に施すことなかれ」も引用している。「平静の心」は本書の題名にもなっているように, オスラーの医師として

の生き方の基本になっているものである。

私は教授としては, 「望ましい教師とは, 自分の専門分野の世界的に優れた研究に精通しているのもちろんのこと, 自らの理念をもち, それを実行に移す覇気と活力の持ち主でなければならない。こういう種類の教師のみが, 大学を偉大にすることができる。人材は遠く広く求めるべきである。月のクレーターの中に安住し, 学外から教師を求めないような大学では, 教えることが上手な教師は得られても, 考えることに優れた人材を得るのは難しい(「教えることと考えること」)。」という文章を心に留め置いてきた。

オスラーは看護教育の重要性を認識し, ジョンズ・ホプキンス病院附属看護学校を創設したが, 本書には「医師と看護婦」, 「看護婦と患者」の2つの看護師に向けた講演も載っている。看護教育にも関与するようになり, 読み返したが多くの考えるヒントが得られた。

日野原重明先生は, このオスラー講演集は, 英語を話す現代の欧米の医学生にも詳しい注解なしには十分に理解できないのではと考え, 仁木久恵先生と協力して [Osler's "A Way of Life" & Other Addresses, with Commentary & Annotations] をデューク大学出版局から出版された。それには総数1,683の脚注がついているが, この脚注をもとに翻訳を見直して『平静の心』新訂増補版として発刊されたのが本書である。

私は本書が医学生, 医師, 看護師のみならず, 人生に感動を求め, 誠実で誇りのもてる「生き方」を追求する多くの人々に, 広く読まれることを心から願うものである。

(A5判 624頁 定価3,990円(本体3,800円+税5%))
(2003年 医学書院 刊)